



2020年12月10日

各位

会社名 オリエンタルチェン工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 西村 武
(コード番号：6380 東証第二部)
問合せ先 管理部 マネージャー 金谷 武志
(TEL 076-276-1155)

事業の現状、今後の展開等について

当社は、下記のとおり、事業の現状および今後の展開等について、株式会社東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第601条第1項第4号a本文に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、2021年6月末日までのいずれかの月において、月間平均時価総額および月末時価総額が10億円以上になった場合は、上場廃止基準に該当しないこととなります。

当社はこの度、時価総額基準に抵触いたしました。下記「2.今後の展開について」に記載いたしました「中期経営計画」の推進により、業績の向上を図り、市場の信頼を回復することで、今後も東京証券取引所市場第二部上場を維持するよう努めて参る所存であります。

記

1. 事業の現状について

(1) 経営の基本方針

当社は、「仕事に科学と人間性を尊重せよ」、「視野は広く製品は常に一流品を」、「夢と若さとファイトを持って」を企業理念に掲げ、各種産業を支える伝動用ローラチェーン等の供給を通じて「お客様、私達や家族、さらに社会の発展に貢献する」ことが会社の目的であり使命であると考えております。

「世界一のチェーンをつくる」、「お客様に安心・安全を供給する」、「社会から信頼される製品、信頼される会社をつくる」をモットーに高品質かつ価値ある製品の供給を行うことにより、伝動と搬送の未来を創造してゆくことを経営の基本方針としております。

(2) 当社事業の現状

当社は、チェーン関連、金属射出成形関連の製品の製造販売を主とした事業活動を展開しております。

(チェーン事業)

伝動用ローラチェーン（標準型ローラチェーン、特殊型ローラチェーン、超小型チェーン等）、コンベヤチェーン（標準型コンベヤチェーン、特殊型コンベヤチェーン、ケーブルチェーン等）、スプロケット類（標準型スプロケット、特殊型スプロケット、チェーンカ

ップリング等)、搬送装置等の製造販売を行っております。

(金属射出成形事業)

金属射出成形加工による精密機器関連部品等の製造販売を行っております。

(その他事業)

OCMビルを賃貸しております。

(3) 業績の推移および概況

① 業績の推移

(単位:百万円)

区 分	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期 (計画)	2022年 3月期 (計画)	2023年 3月期 (計画)
売上高	3,386	2,450	3,113	3,291	3,080	3,227	3,443	3,456	3,252	3,413	3,580	3,265	2,801	3,121	3,355
営業利益	▲133	▲301	91	55	73	89	146	138	82	100	117	14	▲22	118	169
経常利益	▲163	▲297	132	26	53	73	148	127	85	92	124	15	▲21	111	173
当期純利益	▲228	▲304	75	19	52	58	127	114	157	57	80	▲5	▲22	66	104
純資産	989	711	812	829	902	970	1,137	1,183	1,366	1,411	1,469	1,425	1,388	1,439	1,494
総資産	3,363	3,293	3,285	3,518	3,359	3,498	3,505	3,509	3,514	3,466	3,771	3,833	3,756	3,831	3,907

② 業績の概況

2020年3月期におけるわが国経済は、上期までは緩やかな回復基調で推移したとみられますが、下期に入り消費税率引き上げや日韓関係の悪化、米中貿易摩擦の長期化に伴う不透明感の高まり等から設備投資を控える動きが見られるようになり景気の減速感が強まりました。海外においても米国政権の保護貿易的な政策の長期化や中東アジア地域における地政学リスクの高まり等海外情勢の不安定さも継続しており、また、世界的に感染拡大が続いている新型コロナウイルス感染症による影響も懸念され、先行きは依然として不透明な状況が見込まれます。

このような状況下において当社は、市場の多様なニーズへの対応力を高め、受注拡大に向けての製品の差別化や、工場の生産性を高める取組みを継続してまいりましたが、景気減速の影響を受け、一部食品機械業界、包装機械業界で受注増加が見られたものの、搬送機械業界、工作機械業界を中心に全体的な減少となり、海外においては北米向けが大幅に減少しました。

以上の結果、前期における売上高は3,265百万円と前々期に比べ314百万円減少(前期比8.8%減少)となり、営業利益は14百万円(前期比87.6%減少)、経常利益は15百万円(前期比87.9%減少)、当期純損失は5百万円(前期比106.3%減少)となりました。

業績の推移につきましては、2009年3月期および2010年3月期におきましてリーマンショックの影響により、大幅な純損失を計上するにいたりしましたが、2011年3月期以降2019年3月期までの9期間につきましては、営業利益、経常利益、純利益を計上し黒字経営を継続しております。一方、2020年3月期につきましては、当期純損失を計上するにいたりしましたが、2017年3月期には累積損失は解消され、復配に向けての十分な繰越利益剰余金を確保(図1参照)しつつあり、2022年3月期の復配を目標に掲げ、全社一丸となり各種取組を強化してまいります。

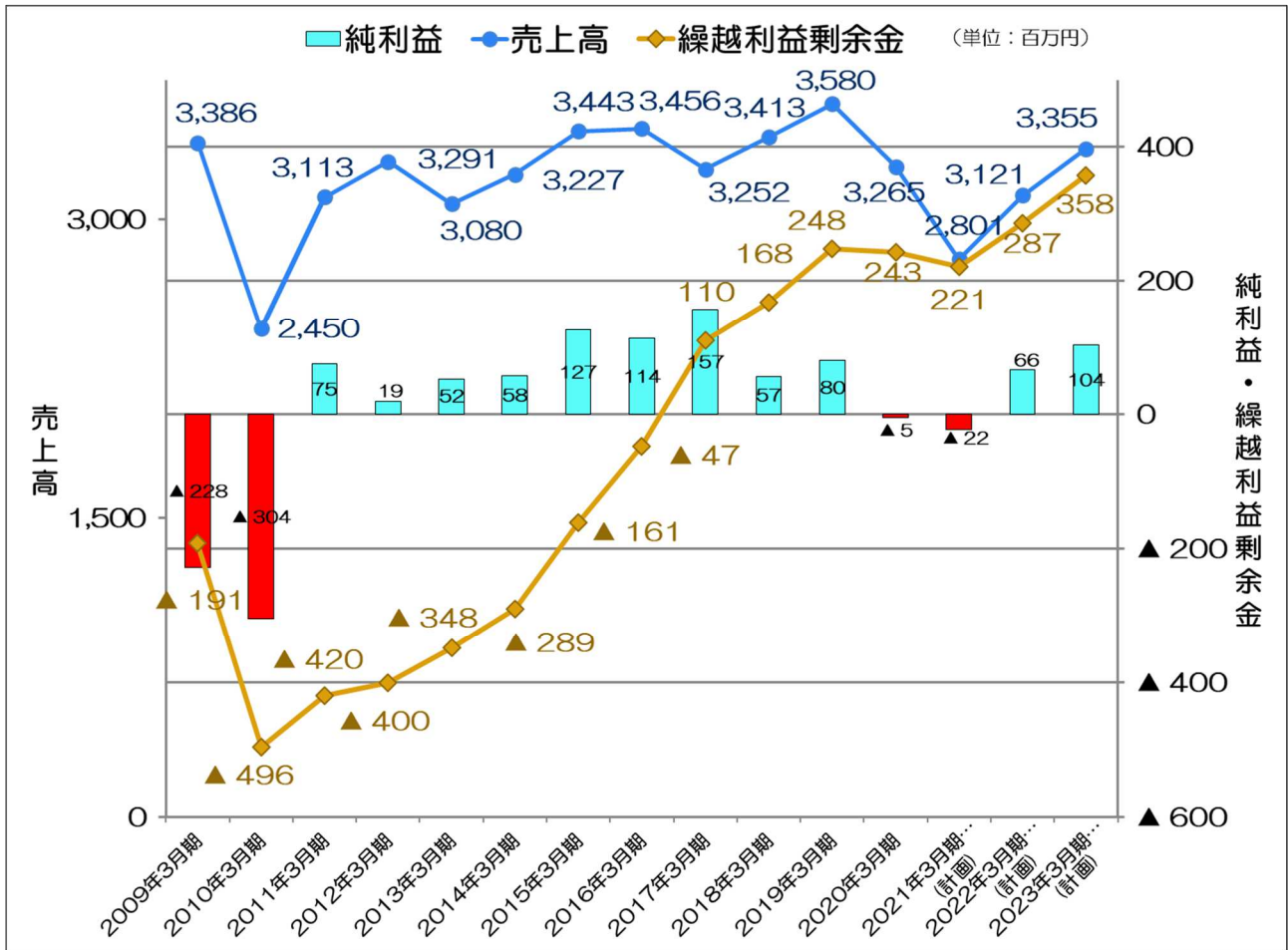


図1. 売上高、損益、繰越利益剰余金の推移

2. 今後の展開について

当社は、2021年3月期を初年度とする3か年中期経営計画を策定し、2020年4月より新たに取り組みを開始しました。3年後の2023年3月期までの経営目標および展開は以下の通りとなります。

(1) 経営目標

- ① 売上高 2023年3月期 売上高 3,355百万円 (2020年3月期比2.7%増加)
- ② 利益 2023年3月期 経常利益 173百万円、当期純利益 104百万円
- ③ 生産性 一人当たり生産性30%向上
- ④ 財務 棚卸資産の圧縮 2億円
- ⑤ 配当 2022年3月期 復配目標
- ⑥ 利益計画

(単位: 百万円)

区分	2020年3月期 実績	2021年3月期 計画	2022年3月期 計画	2023年3月期 計画
売上高	3,265	2,801	3,121	3,355
営業利益	14	▲22	118	169
経常利益	15	▲21	111	173
当期純利益	▲5	▲22	66	104

※利益計画につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により計画値と大きく異なる可能性があります。

(2) 今後の展開

① チェーン事業の営業活動強化による売上高の増加

チェーン事業における国内営業につきましては、当社ブランドネームである「OCM」をご存じない、または、当社の製品をお使いになられたことがないお客様に対し、当社の8品種のナンバーワン、オンリーワン製品（表1参照）の提案を突破口として新規顧客の開拓を積極的に推し進めることにより、更なるブランドネームの浸透を図ってまいります。また、「お客様が求めているものは何か」ということを見極めるために最終ユーザーの声を聴く営業活動を展開し、現行製品の改良や新製品開発に繋げてまいります。

海外営業につきましては、今までは標準品の販売が大半でありましたが、自動車関連業界向けの特種チェーンの増販に加えて国内営業と同様に各種業界向けの特種用途チェーンの拡販を図ってまいります。また、現在17%の当社輸出比率を将来的に25%~30%まで引き上げることを目標として、地域（北米、アジア、EU、豪州、その他地区）別に現地法人の立ち上げ等の販売戦略を構築し海外展開を加速させます。

表1. 当社のナンバーワン、オンリーワン製品

NO.	製品名	特徴	使用用途・使用例
1	オイルポート付高精度ソリッドブッシュチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルポート付ブッシュを使用すると、通常のチェーンに比べ寿命が30%向上します。 ・ブッシュにこのオイルポート(孔)を付けることで、潤滑油給油効果が向上し、摩耗伸びが抑えられ寿命が大きく向上します。 ・高精度ソリッドブッシュにオイルポートを付けるこの技術は当社だけの独自技術です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準チェーンでは摩耗伸びが大きくなるような厳しい環境下で使用する場合に効果を発揮
2	S10ミニチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・世界最小サイズのチェーンです。(ピッチ3.175mm) ・大手精密機器メーカーの内視鏡に採用されており、高い寸法精度が求められます。製造時にはミクロンオーダーの精度が要求され、当社の高い製造技術がここに活かされています。 ・医療用内視鏡操作部に使用され、内視鏡チェーンでは世界シェアの70%を占めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡操作部用チェーン
3	T LH高耐食性チェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・耐食性を高めるために開発されたチェーンです。 ・三種の特種なコーティング被膜で保護されており、被膜が傷付いても自己修復性があるため被膜が元に戻り、高い耐食性を発揮します。 ・当社の耐食性試験(塩水噴霧試験)において、ニッケルメッキチェーン、スーパーシールドチェーンは500時間で赤錆が発生しますが、このチェーンは1000時間でも赤錆は発生しません。 ・RoHS指令にも対応しており、有害な六価クロムや鉛・カドミウム・水銀等は一切使用しておらず、環境にも配慮されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外で使用される番重搬送コンベヤ ・製鉄所内の水蒸気・ダスト雰囲気で使用されるチェーン ・次亜塩素酸雰囲気でのおしぼり搬送チェーン ・飲料紙パック搬送チェーン ・包装紙搬送チェーン(無給油)
4	NDセループチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・当社の標準セループチェーンは、焼結ブッシュに潤滑油を含浸させた無給油チェーンであり、一般チェーンを無給油で使用した場合と比べ寿命を大幅に伸ばすことができます。 ・この標準セループチェーンの部品に特殊処理を施すことで、従来品のさらに4倍もの長寿命化を実現しました。 ・給油が困難な箇所での使用やメンテナンスフリー化で大きな威力を発揮します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送ラインのメンテナンスフリー化(テンション調整の削減等)、長寿命化 ・食品ラッピング装置用チェーン ・ボールペン替芯搬送チェーン ・紙製品自動包装機用チェーン ・輪転印刷機新聞カット装置用チェーン

NO.	製品名	特徴	使用用途・使用例
5	プラリンク チェーン	<ul style="list-style-type: none"> 鉄製リンクプレートを樹脂で包み込んだ当社独自のチェーンです。 搬送用チェーンとして使用され、直に搬送物を乗せても、搬送物を傷付ける心配がありません。 	<ul style="list-style-type: none"> タイヤ搬送チェーン 樹脂製ケース搬送チェーン
6	パーリング チェーン	<ul style="list-style-type: none"> アタッチメントの取付・取替え作業を簡単に行うことができるチェーンです。 アタッチメントの取付けは、通常はチェーンの孔にネジを通し、一つずつナットで締め付けていきますが、このチェーンは、アタッチメントプレートにタップ孔が加工されているため、ネジのみで取付けが可能で、ナット締めの必要がありません。 	<ul style="list-style-type: none"> スラットやアタッチメント等を取付けて使用するチェーン
7	SUS-RB ステンレス チェーン	<ul style="list-style-type: none"> 一般的なステンレスチェーンは錆が出ない代わりに、潤滑油無しでは摩耗伸びが大きいという欠点があります。しかし、このSUS-RBステンレスチェーンは潤滑油無しでも伸びが大変小さい(摩耗寿命11倍)という特徴を持っています。 ピンとブシュの間に、新素材RBセラミックスリーブを組み込んだチェーンで、潤滑油無しでもほとんど摩耗しないチェーンであり、東北大学との共同特許を取得しています。 潤滑油による油汚れを嫌う環境や、位置決め精度が求められる製造ラインで威力を発揮します。 	<ul style="list-style-type: none"> 水を使用したり、潤滑油による汚染を嫌う製造ライン(食品、薬品工場) ステンレスチェーン搬送装置で位置決め精度を要求される製造ライン
8	フリーダム チェーン	<ul style="list-style-type: none"> 屈曲方向を1ピッチ毎に変更できるため、3次元的にチェーンを自由にレイアウトすることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた空間で、3次元的にチェーン搬送を行う装置 コンパクトフライヤー装置

② 製造、管理コストの低減等による利益の増加

当社は、2018年3月期より製造コストの低減を図ることを目的として、生産性を30%以上向上させるための取り組みを行ってまいりました。当社が行っている生産性向上に対するアプローチ方法は、いわゆる製造技術でリードタイムを縮めようとするものです。当社においては未だ様々な無駄が多く見受けられるため、その無駄を無くすため継続的に改善活動を行っております。この生産性30%向上の取り組みにより内製化を促進することで、労働生産性(一人当たり加工高)は今期予想と比較し、2年後には31%向上する見込みです。また、製造コスト低減のほかに、全社的な課題として、例えば「新製品の開発」、「社内で生産することが企業の拡大、利益の増大につながる製品」、「新規市場の開拓」等の13の課題を取りあげて、それぞれの課題に対してプロジェクトチームを立ち上げてPDCAを回し検討・推進を行い、課題解決、達成に向けての努力を重ねております。

併せて、社内の管理システムを全社的に見直し、最新のIT技術を導入し、コスト低減につながる新しい管理システムを構築することにより製造、管理コストの低減と、棚卸資産2億円の圧縮を目指してまいります。

③ 製品品質の更なる向上

大手企業と同じような製品を製造し販売しては、当社のような経営規模の小さな会社はいずれ行き詰まります。そうならないためにも当社は、「私たちは世界一のチェーンをつくります」を品質目標に掲げ、徹底した製造・品質管理を行い製品品質の向上を図ることにより、これからもお客様に安心・安全を供給してまいります。

当社は、高品質なチェーンを製造することを旨すとともに、ニッチな分野向けに当社

の強みである多品種小ロット生産を活かした特殊用途チェーンを製造する事に重きを置いた生産・受注活動を行っております。

当社のチェーン事業における品種構成は、45%が特殊用途チェーン、40%がコンベヤチェーン、15%が標準ローラチェーンであり、これから当社が進むべき方向として、特殊用途チェーンを中心とし、コンベヤチェーンについても拡大強化を図ります。標準ローラチェーンについては輸出向けを中心に拡大を図り、高品質チェーンを世界に向けて供給してまいります。

④ M&Aによる sprocket 売上高の増加

伝動用チェーンは単体では何の機能も発揮できません。sprocket を介して軸の回転による動力をチェーンに伝達することにより始めてその機能を発揮することが出来ます。

sprocket も当社の取扱製品のひとつであり、前期売上割合は売上高の 6.7%でした。

この製品の加工は一部自社にて行っておりますが、大部分が外注加工に依存している状態です。sprocket は伝動用チェーンと切り離せない一体の製品であり、この sprocket を全て自社生産とするために、外注工場の 1 社を吸収し 100% 子会社とする計画であり、これにより sprocket 増産による売上高、利益の増加につなげてまいります。

⑤ 金属射出成形事業における売上高の増加

金属粉末射出成形は 10 ミクロン以下の金属粉末と樹脂・ワックスからなるバインダーを混合して成形材料とし、射出成形により成形したものを、脱脂、焼結することにより金属製品を製造する技術です。

当社は 1947 年に初めてローラチェーンの生産・販売を開始して以来、伝動と搬送の専門メーカーとして発展を遂げてまいりました。そこで培った金属加工技術、熱処理技術、プラスチック成形技術等あらゆるノウハウを継承し 2001 年に金属粉末射出成形事業に参入し医療部品、精密部品、自動車部品など様々な部品を製造してまいりました。当社はこの金属粉末射出成形の技術の中でも難易度が高く、国内メーカーでも数社しか採用していない「中空 MIM 製法」も手掛けており、今後は特に医療機器業界の高性能な治療機器分野において大きくシェアを伸ばして行く方針です。既に医療機器メーカーとタイアップして開発してきた部品は 2021 年には量産に入ります。この事業はその時点において、当社の経営的に大きな柱になるものと認識しております。

3. 今後の見通しおよび上場維持について

当社の 2021 年 3 月期の業績見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による世界的な景気後退に伴う設備投資等停滞の影響により、先にご説明の通り売上高は 2,801 百万円（前期比 463 百万円減少）、営業損失は 22 百万円（前期比 37 百万円減少）、経常損失は 21 百万円（前期比 36 百万円減少）、当期純損失は 22 百万円（前期比 16 百万円減少）を見込んでおります。今後につきましては、上記「2. 今後の展開について」に記載しました諸施策を着実に実行することにより、2022 年 3 月期以降には黒字化を図り市場からの信頼回復と企業価値の向上に取り組んでまいります。また、中期経営計画の開示並びに IR 活動の一環としての株主説明会等の実施も併せて検討してまいります。

これにより、当社株式の月間平均時価総額および月末時価総額について、株式会社東京証券取引所の定める基準を上回ることにより、今後も東京証券取引所市場第二部上場を維持するよう努めて参る所存であります。

以上